

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版、4.0版) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オープンレジデンシア西区上名古屋3丁目 新築工事	階数	地上15F
建設地	名古屋市西区上名古屋3丁目2120番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	60 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年7月6日
敷地面積	1,022 m ²	作成者	
建築面積	388 m ²	確認日	2022年7月7日
延床面積	4,707 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.3 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆ 60%:30%

標準計算

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 再生利用が可能な資源を多く採用し環境に配慮/更新、維持管理のしやすい設計		その他 特になし
Q1 室内環境 室に適した内装材や建具を採用し、音環境、光・視環境、空気質環境に配慮	Q2 サービス性能 防汚性の高い建材を採用する等、機能性に配慮	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー 等級4/BEI=0.97	LR2 資源・マテリアル グリーン購入法における特定調達品目やコマ商品を採用し非再生性資源の削減に配慮/解体時に容易に分別可能な工法	LR3 敷地外環境 LCCO2排出率=83%/駐輪・駐車場・複数出入口を確保し周辺道路の渋滞緩和に配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)オープンレジデンス西区上名古屋三丁目 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0.2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。